

編集後記

検討を開始してから2年半、また、ジャーナル検討委員会(委員長：岡太彬訓、委員：今泉忠、豊田裕貴、宿久洋、山口和範、山本義郎)での約2年の検討と準備を経て、本学会の邦文誌「データ分析の理論と応用」の創刊に至りました。創刊号を会員各位のお手元にお届けすることができ、たいへん嬉しく思う次第です。創刊までのさまざまな過程で、多くの方から、ご親切なご協力、手厚いご支援、暖かいお励ましを頂きました。編集委員会を代表してこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

本学会のWeb siteにあります「日本分類学会学会誌(仮)創刊にあたって」で述べましたように、邦文誌「データ分析の理論と応用」は、さまざまな分野におけるデータ分析に関連する実践的な応用、あるいは、方法の開発、理論の発展において有益なあるいは独創性のある業績を、論文として斯界に広く知らしめることが目的です。これによって、データ分析の理論の発展と方法の開発ならびに実践的な応用とを密接に結びつけることができると考えております。このような目的をご理解頂き、今後も積極的なご投稿を会員各位にお願いする次第です。「データ分析の理論と応用」が、データ分析における実践的な応用とそのための理論やモデルまた方法の間で相互に刺激を与え合う場となって、さまざまな分野でのより有用な応用を促し、そして、実践においてより有用な理論やモデルまた方法の開発の場となることを期待いたします。

なお、日本分類学会では、ドイツ分類学会(German Classification Society [GfKI])およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group of the Italian Statistical Society [CLADAG])と共同で、欧文誌「Advances in Data Analysis and Classification [ADAC]」をSpringer社より刊行しております。欧文の論文については、引き続き「Advances in Data Analysis and Classification」へのご投稿をお願いいたします。

日本分類学会編集委員会
委員長 岡太彬訓